

インターバンクの声（2015 年 3 月 5 日）

いくら最近のドル円相場と株価の連動性が薄れていると言っても、2日連続して日経平均が下げたとあって、昨晚のロンドン市場が始まる頃、本邦実需筋や投資家は、ドル円が大きく下げ始めるのではないかと気になって仕方がなかった。しかし、実際に大きく相場が動き始めたのは、ドル円ではなくユーロの方だった。フランスやドイツの非製造業 PMI の結果が悪かったことへの反応との解説もあったが、指標の落ち込み自体大きくはなかったし、ユーロが下がり始めた時間と指標発表の時間にもズレがあり、どちらかと言えば、5日の欧州中央銀行（ECB）の理事会での国債買い入れ開始発表を前にしたポジション調整売りが唐突に始まったとの見方に説得力があった。市場は一気にユーロ売りに注目が集まっているが、さすがに ECB 理事会当日とあって日中は買い戻しが進むとの声が大きいようだ。オプションを仕込んでいるような人達は相当なユーロの値下がりを見込んでいるらしい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。